

柔道形国際大会で優勝

『お家芸 面目立った』

岡崎 近藤さんと安城 大河内さん 40歳超ベテランペア

投げ部門 技の切れ息じタリ

東京 講道館で二十七、二十八の両日に開かれた第一回柔道形国際競技大会の「投(なげ)の形」部門で、岡崎工業高校教諭の近藤克幸六段(40)＝岡崎市＝と、接骨院経営の大河内哲志五段(43)＝安城市＝が初優勝を成し遂げた。四十歳超のベテランペアは、日本代表の大役を果たし世界一になり、中年の意地が見せられた」と喜びを爆発させた。(石原泰智)

大会には日本のほか、欧州、アジア、アフリカなどから代表選手が参加。「投の形」部門には九組が出場。投げ役と受け役の二人がペアとなり、約八分間に内またや背負い投げ、肩車など規定の十五の投げ技を披露。二人は息の合った技の切れや美しさが評価され、100点満点中80.0点と2位に2.1ポイント差をつけて栄冠に輝いた。

投げ役の近藤さんは鹿屋体育大を卒業後、愛知県で教員生活に。一九九四年には国体成年の部で優勝し、現在は岡崎工高で柔道部顧問を務める。

受け役の大河内さんは日本体育大卒業後、高校の非常勤講師を経て安城市で接骨院を開業。高校時代には県大会3位の實力の持ち主。

西三河柔道協会に所属する二人は二〇〇〇年にペアを結成。〇二年の「投の形」の全日本優勝を置き土産に一度は競技から身を引いたが、今年に入って日本で初めての国際大会の開催が決定。五年ぶりにペア復活を決意した。一カ月前から週三、四回、岡崎工高の道場で夜に約二時間のけいこに励み、万全の状態で大大会に臨んだ。

世界の頂点に立った近藤さんは「日本のお家芸の面目が立った」と満足げ。大河内さんも「まだ実感がわかないが、練習の成果が出て良かった」とほほ笑んだ。

柔道の形競技 国内の全日本「形」競技大会は1997年から始まり、部門は投(なげ)「固(かため)」「極(きめ)」など7つ。技の切れや美しさのほか、礼儀作法や

服装も審査対象となり、100点満点で得点を競う。27日からの国際競技大会は講道館、全日本柔道連盟が初めて企画した。